

市立病院では、令和6年3月に「市立病院経営強化プラン」(計画期間:令和6年度～令和9年度)を策定し、持続可能な地域医療提供体制の確保と経営強化に取り組んでいます。

令和6年度 of 取組状況及び実績について、経営強化プランに掲げた数値目標との比較を行うとともに、市立病院運営協議会における意見等を踏まえ、点検・評価を行いました。

1 数値目標の達成状況

(1)医療機能・医療の質・連携の強化等に係る数値目標

区分	項目	R6 目標	R6 実績	評価
医療機能	救急搬送件数(件/年)	1,000	1,163	○
	手術件数(件/年)	750	876	○
	リハビリテーション実施単位数(単位/年)	36,717	35,430	△
	延訪問看護患者数(人/年)	90	252	○
医療の質 連携強化	地域包括ケア病棟在宅復帰率(%)	72.5 以上	86.8	○
	紹介率(%)	32.3	45.1	○
	紹介件数(件/月)	243	272.7	○
	逆紹介率(%)	10.7	17.3	○
	逆紹介件数(件/月)	80	104.8※1	○
その他	臨床研修医受入数(人/年)	10	9	△

(2)経営指標に係る数値目標

区分	項目	R6 計画	R6 実績	評価
収入確保	1 日あたり入院患者数(人)	124.2	111.8	△
	急性期一般病棟(人)	72.3	64.4	△
	地域包括ケア病棟(人)	32.3	27.2	△
	医療療養病棟(人)	12.8	9.1	△
	介護医療院(人)	6.8	11.1	○
	1 日あたり外来患者数(人)	245.9	279.7	○
	全病床稼働率(%)	72.6	65.4	△
	急性期一般病棟(%)	73.8	65.7	△
	地域包括ケア病棟(%)	82.8	69.9	△
	医療療養病棟(%)	71.2	50.4	△
	介護医療院(%)	42.4	69.6	○
	入院患者単価(円)	34,943	36,286	○
	外来患者単価(円)	11,875	11,128	△
	一般病棟平均在院日数(日)	21 日未満	15.3	○
	職員給与費対医業収益比率(%)	64.8	68.8	△
費用削減	材料費対医業収益比率(%)	17.9	19.7	△
	薬品費対医業収益比率(%)	7.5	8.1	△
	委託費対医業収益比率(%)	11.9	13.6	△
	後発医薬品の使用割合(%)	80.0	85.41	○
	100 床あたり職員数(人)	96.8	95.7	○

区分	項目	R6 計画	R6 実績	評価
経営の安定性	常勤医師数(人)	16	15※2	△
	常勤看護師数(人)	87	72※2	△
	企業債残高(千円)	760,588	811,494	△

(3)収支改善に係る数値目標

項目	R6 計画	R6 実績	評価
経常収支比率(%)	99.3	91.9	△
医業収支比率(%)	91.4	86.7	△
修正医業収支比率(%)	87.6	81.3	△
不良債務比率(%)	△14.9	△11.6	○

※1 年間実績 1,258 件を月平均に換算。

※2 年度末正職員数。

※「○」は目標達成、「△」は目標未達成を示します。数値は端数処理の関係で他の公表資料と一致しない場合があります。

2 令和 6 年度の主な取組状況

地域医療・医療機能

令和 6 年 4 月に介護療養病床 16 床を介護医療院へ転換し、急性期、地域包括ケア、医療療養、介護医療院及び訪問看護を組み合わせた医療・介護提供体制の充実を図りました。

救急搬送件数は 1,163 件、手術件数は 876 件となり、いずれも計画目標を上回りました。また、地域包括ケア病棟在宅復帰率、紹介率・逆紹介率、訪問看護についても目標を上回り、救急医療から在宅医療まで地域を支える機能について一定の成果が認められました。

一方、リハビリテーション実施単位数は目標を下回っており、引き続き提供体制の充実に取り組む必要があります。

病床運用・収益確保

入院患者単価及び一般病棟平均在院日数は目標を達成しました。また、介護医療院は開設初年度から計画を上回る利用となりました。

一方、1 日あたり入院患者数は 111.8 人、全病床稼働率は 65.4%となり、急性期一般病棟、地域包括ケア病棟、医療療養病棟で計画を下回りました。今後、地域医療連携の強化による紹介入院患者の確保、病棟間の適切な転棟、在院日数の適正化等により、病床の効率的な運用を進める必要があります。

外来については 1 日あたり患者数が計画を上回った一方、患者単価は計画を下回りました。

医師・看護師等の確保

山梨大学医学部附属病院との連携を継続し、医師確保に取り組みました。また、看護学校訪問、就職ガイダンスへの参加、インターンシップの受入れ、採用案内の見直し等により看護師確保に取り組みました。しかし、年度末の常勤医師数及び常勤看護師数はいずれも計画を下回っており、特に看護師不足は病床運用にも影響する重要な課題となっています。引き続き新規採用と離職防止の両面から人材確保を進めます。

経営改善

診療報酬の適正な算定、未収金対策、委託内容や医療機器保守契約の見直し、光熱費の抑制等、収入確保と費用削減の両面から経営改善に取り組みました。

しかし、令和 6 年度の経常収支比率は 91.9%、修正医業収支比率は 81.3%となり、いずれも計画を下回りました。入院患者数及び病床稼働率の低迷に加え、人件費や物価上昇等による費用負担もあり、経営状況は引き続き厳しい状況にあります。

3 総合評価

令和 6 年度は経営強化プランの初年度として、救急搬送、手術、訪問看護、地域包括ケア病棟在宅復帰率、紹介・逆紹介、介護医療院の運用など、地域医療を支える機能については多くの項目で計画目標を達成し、一定の成果が認められました。

一方、入院患者数及び病床稼働率、医師・看護師の確保、経常収支等については計画を下回っており、経営基盤の強化が課題となっています。

今後は、公立病院として地域に必要な医療機能を維持することを基本としながら、医療従事者の確保、地域医療機関等との連携強化、病床の効率的な運用、患者単価の向上、診療報酬の適正な算定、未収金対策及び経費の適正化等を進め、経営強化プランの目標達成に向けて継続的に取り組みます。